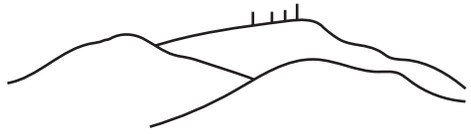
Devotion Guide/ユースマナ

Youth Manna

2019/8/19 - 8/25



マルコ 1:35
　さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2019/8/19(月)

マタイ 27:27-44

　思い出すと恥ずかしかったり、悲しくなる経験はあるかな？イエス様は一度も罪を犯されなかったのに、裁判で嘘をつかれ有罪とされ、鞭打たれ、茨の冠を被せられてバカにされ、たくさんの罵りの中で重たい十字架を持たされて最後は裸で十字架にかけられたんだ。悔しい、恥ずかしい、惨め、痛い、悲しい、恐怖、人が嫌がる全ての感情と苦しみをイエス様は味わわれたんだね。
　それは私達の思い出したくないその過去を分かって慰めるため！！私達を罪から救うため、赦すためだよ！！感謝してイエス様の愛に飛び込もう！！

2019/8/20(火)

マタイ 27:45-56

　十字架の苦しみは想像を絶するものである。十字架を目の前に、人々はイエス様をののしり、嘲った。「酸いぶどう酒」を飲ませようとしたのは言葉をはっきり聞くため、気絶させないためであった。冷たい好奇心である。イエス様は様々なののしりや嘲りにあっても沈黙し、みわざの成就と復活に向かわれた。イエス様は十字架上で、天の父から見捨てられるという、誰一人として味わうことのない霊的な絶望を経験された。「どうして私をお見捨てになったのですか」というううめきが、その苦しみを切実に表している。本来私たちが負うべき罪を負って、十字架で苦しまれたのである。
　今改めて、イエス様の十字架の苦しみと、それによって私たちの罪が赦されたことを思い巡らそう。そして感謝しよう。

2019/8/21(水)

マタイ 27:57-66

　イエス様が十字架の上で叫びながら霊を渡された。アリマタヤのヨセフは、主の亡骸を引き取り、丁寧に埋葬した。それは、主の復活が事実である証拠のために用いられる。祭司たちは、弟子たちが墓から遺体を盗み出すことを警戒し、墓に番兵と封印を施した。これらのことも、復活の真実性を証するものと用いられ、すべてが神様のご計画のうちに動かされていることを知ることができる。
　すべてのことが神様のご計画のうちにあることを、感謝します。イエス様の十字架を覚える一日とさせてください。

2019/8/22(木)

マタイ 28:1-10

　今日の箇所は復活についての物語である。復活とは死んでいた者が生き返ること、絶望の中にいた者が希望を持つようになることである。
　二人のマリアはイエスの墓を見に行き、石が動かされ、御使いにイエスの復活を聞かされるという奇跡を目にし、さらにその後イエスにもあった。
　聖書のみことばや、イエス様が「恐れることはない」と言う時、その根拠はいつも主が共におられることによる。「恐れることはありません」と言われたイエスの言葉を信じ、信仰に強く立って歩もう！

2019/8/23(金)

マタイ 28:11-20

　ガリラヤは弟子達の出身地であり、イエスと出会った地です。その場所でイエスは弟子達を迎えたかったんだね！イエス様の生涯の行動には無駄な事は一つもなく、全てにおいて神と人とを愛していました。それは聖書に書かれている人の名だけでなく私達にも向けられた愛です。愛されている事を確信しよう！
　イエスが天に昇る前の最後の言葉があります。それが大宣教命令です。私達クリスチャンの生きる目標です。もう一度 18〜20 節を読もう！イエス様がいつも共にいて下さる事を信じ従いますと祈ろう！

2019/8/24(土)

II サムエル 15:1-18

　アブサロムは、５年ぶりにお父さんのダビデに会ったけど、お父さんからの愛を受けられず、向き合ってもらえなかったアブサロムの心は、反逆する思いでいっぱいだった。着々と人々を自分の味方につけていくアブサロム。いよいよ反逆の時となると、ダビデはすぐにエルサレムから逃げることを選んだ。
　家族や仲間とぶつかったり、時には傷つけてしまったり、それは人として誰しも経験すること。だけど、そこで神様を見ない関係は、ひたすら悪い方に向かってしまうし、向き合うことすらできなくなってしまうね。
　どんな時も家族や友だち、人との関係の真ん中にイエス様を迎えていこう！イエス様に、その関係の中で私は何をしたらいいのか聞いてみよう！

2019/8/25(日)

II サムエル 15:19-37

　１５章では謀反を起こすアブシャロムについていく人、エルサレムから逃げるダビデについていく人、どちらにつくとも言えない人など、様々な人々の心の内が明らかにされていきます。
　ガデ人イタイは「生きるためでも死ぬためでも、このしもべも必ずそこにいます」と言ってダビデについていきました。
人生をかけて、従うことを決めたイタイの覚悟にはどのような思いがあったのでしょうか。同じように、イエス様に従おうとする私たちの心にはどんな思いがあるでしょうか。
　静まって、今一度イエス様に対する自分の思いを確認しよう。